

# 高校 国語の学習

## 2 総合編

### テスト問題用紙

.....

- ・先生から試験開始の合図があるまで、ページをひらかないこと。
- ・問題は、小説 1 問／随筆 1 問／古文 1 問／国語基礎力 4 問の計 7 問ある。
  - P 2 ～ P 3 …小説
  - P 4 ～ P 5 …随筆
  - P 6 ～ P 7 …古文
  - P 8 …国語基礎力
- ・◎印の問いは、本書では問われなかったものである。
- ・解答はすべて、別紙の解答用紙に記入すること。



京都書房 ②

## 1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

——実業団ラグビーチームのゼネラルマネージャーとなつた君嶋は、スタッフの多英と共に、新監督に迎えたいと願う柴門との交渉にのぞむ。……

「社内でラグビー部はどう見られてる？」質問も的確だ。「正直、予算案を通すのはひと苦労だ。」口から出任せをいっても仕方がないので、正直に君嶋は打ち明けた。「コストの塊だと酷評する役員も何人かいる。社長のラグビー愛に支えられている部分は大きい。」「いつ、廃部になるかわからない状況か。」隣にいる多英が椅子の上で身じろぎするのがわかった。柴門の鋭い眼差しが、(A)君嶋を見据えてくる。

「そこまで切迫してはいないが、成績が低迷すれば可能性はある。」柴門はなんとこたえるだろうか。企業スポーツにとって、廃部は最大のリスクだ。少しでも、その可能性の低いチームを率いたいと思うのは当然だろう。

「強化方針を撤回するとか、そういう具体的な話は出たか。」「そこまではない。すつたもんだはあったが、予算案も満額通つた。」そうか、と柴門は(B)息を吐いた。強化方針が撤回されれば、企業チームはあつという間に弱体化するからだ。「そちらが希望する契約の条件は。」「I」直入に、柴門はきいた。「プロ契約で頼みたい。」と君嶋。「何年契約にするかは相談させてくれ。」

「正直、それはどこまでのことを期待しているかによる。」逆に問われ、「優勝争いができるチームにしてほしい。」そう(C)君嶋はこたえた。

「そして、できれば優勝したい。」じつと、柴門の目が君嶋を見据えている。

(D)、「いつまでに。」そんな問いが発せられた。「できれば、三年以内に。」考える間が入る。柴門の前には、資料として渡した選手とスタッフのリストがあった。一旦そこに視線を落とし、何かを考え、やがて顔が上がつて視線が君嶋に戻ってくる。その瞳に向かつて、君嶋は頼み込んだ。「引き受けてくれないか。ウチには柴門、お前の力が必要なんだ。この通りだ。——頼む。」息を詰めた多英が、柴門のこたえを待っている。さらに思案した柴門が口にしたのは、「三年は長すぎるな。」というひと言だ。「二年契約にしてくれ。二年で優勝争いができるチームにする。だが、優勝までは約束できない。優勝を争うチームと、本当に優勝するチームにはかなりの差がある。そこまでするかどうかはわからない。」「わかった。他に条件は。」「地域密着型のチーム運営をしたいという意思是尊重するし、それに選手を駆り出すのはかまわん。だが、練習方法とかに「II」出しは一切せず、まかせてほしい。もし「II」出ししたら、その時点でオレは降れる。」「わかった。」

◎問1 ( ) A、Dに入ることをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。(同じことは二度使わない。)

ア やがて    イ ほっと    ウ はっきりと    エ じっと

問2 — 線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ののしり合い

イ 暴力沙汰

ウ だまし合い

エ ごたごたしためごと

◎問3 — 線部②を別のことばに言い換えよ。

問4 「」Iに入ることはとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 端刀    イ 単刀    ウ 担刀    エ 胆刀

問5 — 線部③が指すものを文中から三字で抜き出して答えよ。

問6 — 線部④はどんな気持ちからの行動か。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 緊張して    イ 期待して    ウ 恐れて    エ 予定を考えながら

◎問7 「」IIに共通して入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 口    イ 舌    ウ 手    エ 角

◎問8 君嶋が柴門と結んだ「プロ契約」の最も重要な項目が端的に書かれている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

## 2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

——十歳の頃の冬、父から風呂焚き<sup>た</sup>に使う薪割りを教わった。……

「木の目にそって刃を当てなきゃ駄目だ。ほらっ、しっかり握ってないと、指が飛んでしまうぞ。」と脅されたり、叱られながら作業をした。二十分もすると身体が（A）してくる。大きな斧<sup>おの</sup>で作業をしている父は、いつの間にか上半身は肌着姿になっていた。空に向かって大斧を振り上げる父が大男に見えた。先刻まで「I」としていた庭の空気が、秋の晴れ間のように膨らんだ空気になっていた。だがそのうち手が持ち上がらなくなる。斧がこんなに重かったかと思えてくる。指がぎこちなくなつて、思うように動かない。自分の手ではないように思えてきた。

「休むな。これだけやってからだ。」と父が木の山を指さして言う。あわてて次の木を台の上に置く。初めのうちは、男の仕事をしているんだと妙に喜んでいたが、次第に嫌なことを手伝わされているように思えてきた。二時間程した頃に、母がお茶と菓子を持つて現れた。

「ひと休みするか。」父の声で、それぞれの台の上に腰掛けて菓子をほおばる。休憩できることと饅頭<sup>まんじゅう</sup>の甘さで、急に嬉しくなったのを覚えている。

次の年は、弟が加わった。私は大きな斧を持たされた。弟は前の年に私が使った小さな斧を父から渡された。他所<sup>よそ</sup>見をしてると「II」ぞ、と私が言われたことと同じことを弟も父から言われる。私の大きな斧は手斧より重いし、狙ったところに（B）刃を振り降ろせない。「（C）足を踏んばれ。腰を落として斧を振り上げるんだ。腹に力を入れる。」と父が私に言う。

翌年から、私と弟で薪割りをさせられた。二人だけでは、ひどく時間がかかった。木はひとつひとつ木目が違う。（D）割れるものもあれば、固くて斧が入らない木もある。それでも不思議なもので、ひと冬薪割りをすると、一見割れにくい木も、どの辺りに刃を入れれば割れるかがわかってきて、コツのようなものが見えてくる。それに前の年に重かった斧が軽いことにも気付く。

「このコツは楽だな。」とそばで弟がひとり言を言ったりする。作業をした夜、弟と風呂に入ると、「自分で作った薪の風呂は格別でしょう。冬支度をしていただいて……。」と釜口から母の声がした。二人とも一人前の男になったようで、どこかむずがゆい気持ちになった。お互いの掌<sup>てのひら</sup>をひらいて、赤くなつた指の付け根を見せ合ったりした。

ひとつのことをずっと続けていると、自然<sup>③</sup>に見えてくるものが世の中にはあるのだろう。うまく仕事が運ばなかったり、自分には

無理だと感じた時でも、そのうち木の目が見えてくるし、斧も軽く思えるはずだ。

◎問1 ( ) A～Dに入ることをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。(同じことは二度使わない。)

ア もつと    イ ポカポカと    ウ スパッと    エ なかなか

問2 「」Ⅰに入ることをとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 冷えびえ    イ ほのほの    ウ しみじみ    エ ぬくぬく

問3 —線部①とあるが、この後「私」の新割りに対する気持ちはどのように変化したのか。それが書かれている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

◎問4 「」Ⅱを入れることを文中から八字で抜き出して答えよ。

◎問5 —線部②について、「私」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 母から丁重な感謝のことばをかけられたのは当然だ。

イ 弟と二人で大きな仕事をなしたことが嬉しい。

ウ 自分たちが一人前の男になったようでうれしい。

エ もう新割りのできない父を乗り越えられて誇らしい。

問6 —線部②について、その「気持ち」を引き出した母のことを、文中から五字で抜き出して答えよ。

問7 —線部③とあるが、どのようなものが見えてくるのか。文中から八字で抜き出して答えよ。

問8 右の文章を、時間の経過によって三つの部分に分けるとすると、二つ目、三つ目はそれぞれどこから始まるか。最初の三字ずつを抜き出し、順に答えよ。

## 3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

\* 十二年の合戦に、貞任はうたれにけり。\*さだたふ 宗任は降人\*むねたふになりて来たりければ、優してつかひけり。\*むねたふ 嫡男義家朝臣のもとに朝夕祇候しけり。

ある日、義家朝臣、宗任一人を具してものへ行きけり。主従ともに狩装束にて、うつばをぞ負へり「A」。広き野を過ぐるに狐一匹走り「B」。義家うつばより雁股\*かりまたを抜きて、狐をかけけり。射殺さんはむざんなりと思ひて、左右の耳の間をすりざまにしりへ射たりければ、矢は狐の前の土にたちにけり。狐その矢にふせがれて、倒れてやがて死ににけり。① 宗任馬より下りて狐を引きあげて見るに、「矢もたたぬに死にたる。」と言ひければ、義家見て、「臆\*おくして死にたるなり。② 殺さじとてこそ射はあてね、いま生き帰りなむ。その時はなつべし。」と言ひけり。③

すなはち矢を取りて参らせければ、やがて宗任して、うつばにささせたまひけり。他の郎等ろうどうこれを見て、「あぶなくもおはするものかな。降人に参りたりとも、本の意趣は残りたるらむものを、脇わきをそらして矢をささする事あぶなき事なり。おもひきる害心もあらばいかが。」とぞかたぶきける。④ されども義家は、ほとんど神に通じたる人なりけり。宗任、いかにと思ひよるべくもなかりければ、たがひにかく身をまかせけるにや。⑤

(橘 成季『古今著聞集』巻第九)

\* 十二年の合戦：平安時代後期に陸奥国北部で起こった反乱。

\* 貞任：安倍貞任。陸奥の豪族。源頼義・義家親子と戦い、敗死した。

\* 宗任：安倍貞任の弟。

\* 義家：父・頼義とともに安倍貞任を討ち、東国に源氏勢力の根拠を固めた。

\* うつば：矢を差して背負う武具。

\* 雁股：殺傷力が強い矢。

◎問1 「」A・Bに入ることばをそれぞれ次から選び、順に記号で答えよ。

ア けら イ けり ウ ける エ けれ

◎問2 線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 無念だ イ 残念だ ウ 興ざめた エ 残酷だ

◎問3 線部②は、実際はどういう状態だったのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 即死だった イ 気絶した ウ 負傷した エ 死んだふりをした

◎問4 線部③にはどんな気持ちが含まれているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 驚き イ 同情 ウ 非難 エ 軽蔑

◎問5 線部④を現代語訳せよ。

◎問6 線部⑤は、誰の「意趣」か。文中から抜き出して答えよ。

問7 線部⑥について、誰のどのような点を非難したのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 宗任が主人に無礼な態度をとった点。 イ 宗任が主人を危険な目にあわせた点。

ウ 義家が狐を仕留められなかった点。 エ 義家が不用心なふるまいをした点。

問8 線部⑦は、どういうことを「思ひやるべくもなか」ったのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 義家のように狐にも情けをかけてやること。 イ 義家に今後は絶対的な忠誠を誓おうということ。

ウ 義家の隙を突いて危害を加えようということ。 エ 義家のように超人的な武勇の人になること。

◎問9 線部⑧は、ここではどのようなことを意味するか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア なれあつて イ 競いあつて ウ 機会をうかがいあつて エ 信頼しあつて

◎問10 『古今著聞集』の説明として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 平安時代の歴史物語 イ 平安時代の説話 ウ 鎌倉時代の歴史物語 エ 鎌倉時代の説話

4

次の各問いに答えよ。

A 次の作品の作者・訳者名をそれぞれ下から選び、記号で答えよ。

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ① 於母影<br>おもかけ    | ア 高村光太郎<br>こうたろう  |
| ② 智恵子抄<br>ちえこしょう | イ 与謝野晶子<br>よさのあきこ |
| ③ 若菜集<br>わかな     | ウ 斎藤 茂吉<br>もきち    |
| ④ みだれ髪           | エ 森 鷗外<br>おうがい    |
| ⑤ 赤光<br>しやくこう    | オ 島崎 藤村<br>とうそん   |

B 次の俳句の（ ）に入る結句をア～オから選び、記号で答えよ。また、完成した俳句の短評をa～eから選び、記号で答えよ。

- |                    |                |         |                           |
|--------------------|----------------|---------|---------------------------|
| ① 梅が香にのつと日の出る（ ）   | 松尾芭蕉<br>ばしやう   | ア 寒さかな  | a 薄明の中の馥郁たる香りと行く手の朝日とを詠む。 |
| ② 病む雁の夜寒に落ちて（ ）    | 松尾芭蕉           | イ 海のはて  | b しなやかさの中に、手ごたえが伝わった時の感動。 |
| ③ 易水にねぶか流るる（ ）     | 与謝蕪村<br>よさぶる   | ウ 旅寝かな  | c 旅先で病んだ折りの怪しい心情を詠む。      |
| ④ こがらしや雲吹き落とす（ ）   | 正岡子規<br>まさおかしき | エ すすきかな | d 広大な天地の間をみたす、もの寂しき。      |
| ⑤ をりととりてはらりとおもき（ ） | 飯田蛇笏<br>いただこ   | オ 山路かな  | e 刺客を詠んだ漢詩文をふまえた句。        |

C 次の慣用句の意味をそれぞれ下から選び、記号で答えよ。

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| ① 歯が立たない  | ア 高ぶらず、謙虚だ。     |
| ② 口をはさむ   | イ 対等にふるまえない。    |
| ③ 腰が低い    | ウ 自分の力量ではかなわない。 |
| ④ 頭が上がらない | エ 納得できない気持ちだ。   |
| ⑤ 首をかしげる  | オ 横から割り込んで言う。   |

D 次の――線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直せ。

- |                |               |                |      |      |               |               |
|----------------|---------------|----------------|------|------|---------------|---------------|
| ① 佳境           | ② 偶然          | ③ 幻想           | ④ 契約 | ⑤ 度肝 | ⑥ ダンボウのきいた部屋。 | ⑦ 作文のテンサクをする。 |
| ⑧ 新品とのコウカンを頼む。 | ⑨ 道路がジュウタイする。 | ⑩ カンアンして結論を出す。 |      |      |               |               |